

平成25年度 第1回CCC政治学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成25年12月6日（金）17：30～19：30

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：平野委員 川島委員 昇委員 名取委員
（事務局）井端事務局長 森下 松本

IV. 資料

資料① 平成25年度CCC政治学グループ運営委員会の活動計画

資料②-1 政治学教育における教育改善モデルについてアンケートの内容

資料②-2 政治学教育における教育改善モデルについてアンケート集計結果

参考1 学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査（平成25年8月中央教育審議会資料）

参考2 これからの大学教育等の在り方について（平成25年5月教育再生実行会議第三次提言資料）

参考3 教育振興基本計画（平成25年6月閣議決定資料）

参考4 学びの革命世界が舞台（新聞情報）

参考5 誰でも無料ネット講義（新聞情報）

参考6 大学の卒業認定厳しく（新聞情報）

参考7 高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について
（平成25年10月教育再生実行会議第四次提言資料）

参考8 教授会の権限、4項目に（新聞情報）

参考9 授業に「タブレット革命」（新聞情報）

参考 Future Skills Project 研究活動報告

その他 平成25年度委員名簿、平成25年度公益社団法人私立大学情報教育協会事業計画書

V. 議事内容

1. 平成25年度のCCC政治学グループ運営委員会の活動計画について

平成25年度は、能動的学修の実現に向け、ICTの活用を含めた効果的な学修の取り組み方策、教員の教育指導の開発について今後一層研究を進めるため、サイバーFD研究員の先生方へのアンケートを踏まえた見直しを2回の委員会で行う。その上で、平成26年度に向けた教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現に向けた研究の意識合わせを行う。

2. 教育改善モデルのアンケートの検討について

資料②-1によりサイバーFD研究員の先生からいただいた6件の意見について内容を検討した。

3. アンケートの主な意見

（1）政治学教育における学士力の考察の到達目標、到達度について

概ね妥当であり、賛同するとの意見がほとんどであった。

主な意見と検討内容（意見は①～③、検討内容は*で示す）

① 学部生には到達目標が高すぎるのではないか。

* 統制モデルではないので各大学のレベルに応じて参考にしていただきたいが、到達目標1以前、入門編(法学でいうリーガルマインド的な)として、来年度、検討していくことになった。

② 到達目標の測定方法として「択一式」が挙げられているが、この方式が意味のあるものだとは思わない。

* 「択一式」に限定しているわけではない。統制モデルではないので各先生方でお考えいただきたい。

③ 到達目標の測定方法について、人文・社会科学の全ての学問分野は同一になるので、具体的な測定手法を記載してはどうか。

* 統制モデルではないので各先生方でお考えいただきたい。

(2) 教育改善モデルについて

賛同する意見がほとんどであった。

主な意見と検討内容（意見は①、検討内容は*で示す）

① ネット上でのグループ討論等を考えるのであれば、各グループが等質的な意見の持ち主ばかりにならないような工夫や、少数派が発言しにくい状況にならないような工夫を講ずる必要があるのではないか。

* 学力を考える上で重要な視点である。政治学的に考えるだけでなく、心理的、経済的、コスト的、安全・安心、科学技術、社会科学、医療など、横断的に物事を考える力が必要ではないか。

学びの中に価値観の違う学生（できるだけ異分野の）を入れて思考過程を学ばせることが必要ではないか。

特に政治は戦略論なので、相手を広く知ることを学びのプロセスに入れてくることが必要ではないか。

などの意見があり、来年度、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)実現に向けた効果的な取り組みの方策について検討する中で、以上のような視点を取り入れていくことになった。

(3) 専門性、教育力、FD活動と大学としての課題について

賛同する意見がほとんどであった。

4. 社会の動きなどを踏まえた能動的学修等の動向の意識合わせについて

参考資料を報告し、新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて、国・社会から様々な提言が行われており、大学に改革行動が求められていることや、能動的な学びを実現する授業改善の取り組み、全学的な教学マネジメントの課題と対策、教員の教育力向上の課題、情報通信技術（ICT）を活用した授業改善への取り組みと課題等について意識合わせを行った。

昨年までの5年間にわたり研究を進めた「大学教育への提言」未知の時代を切り拓く教育とICT活用で提案した内容が学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査の結果や内閣府、中央教育審議会等の方向と一致しており、このことを踏まえて平成26年度にむけた教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現に向けた取り組みを研究することを確認した。

5. 次回の委員会

日時：平成26年2月19日（水）17：00～19：00

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

再度アンケート結果を見直し、来年度の研究のテーマについて検討する。